とりだい病院ニュース
Tottori University Hospital **News**

No.35
2015年 7月号

発行／鳥取大学医学部附属病院（広報・企画戦略センター）
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1 TEL.0859-38-7039
http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/
電話番号案内 TEL.0859-33-1111

理念
健康の喜びの共有

体への負担が少ない心臓手術 ～TAVI（タビ手術）～

鳥取大学医学部附属病院は、山陰地区で初めて、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術「TAVI」の実施施設に認定され、平成27年5月に初回手術を施行しました。今回の成功により、高齢などの理由で外科的治療を諦めざるを得なかった患者さんに新たな治療の道が開かれます。

大動脈弁狭窄症とは

心臓の大動脈弁が加齢や動脈硬化などの原因で開きにくくなることで心臓に負担がかかり、十分な血液が心臓から送り出されなくなる病気です。息切れや胸の圧迫感といった症状があり、重症化すると突然死を引き起こす可能性もあります。

通常、大動脈弁狭窄症に対しては、胸を開いて人工弁に取り換える外科手術が標準的な治療法です。しかし、心臓を止め、人工心肺に切り替えるなど体への負担が大きいため、高齢で体力が低下している方や、その他の疾患などのリスクを持つ患者さんには適用できません。

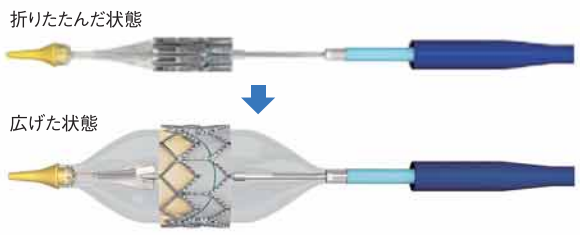
TAVIのメリット

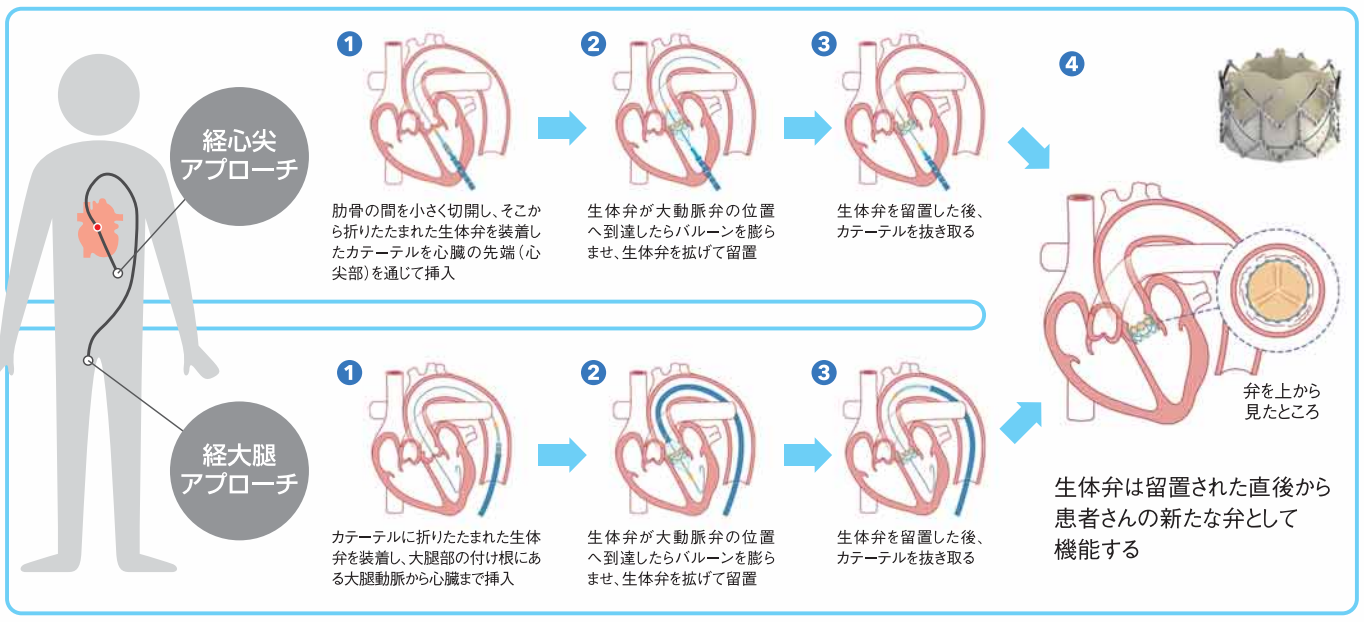
「TAVI＝経カテーテル的大動脈弁植込み術」とは、足の付け根の血管または心臓の先端から、折りたたんだ人工弁を載せた専用カテーテルを挿入し、硬くなった大動脈弁を壁に押し付けて人工弁を植え込む治療です。メリットとして

1 手術のための切開が少ない　**2 手術時間が短い**
3 心臓を止める必要がない　**4 術後の回復が早い**

が挙げられます。

人工弁を折りたたんだ状態で挿入しバルーンで広げる





イラスト/写真提供:エドワーズライフサイエンス株式会社

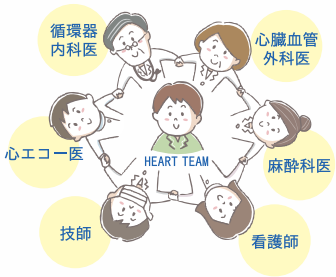
TAVIハートチームの結成

患者を中心とした多領域の専門家からなるTAVIハートチームアプローチ

「TAVI＝経カテーテル的大動脈弁植込み術」は平成25年10月より保険適応となり、現在国内でも急速に広まっている治療です。厳格な施設基準および、高度な技術、各科・部門の垣根を越えたチーム医療が必要となります。当院では、昨年ハイブリッド手術室を完備した他、すべての基準を満たし、また多領域の専門家からなるハートチームを結成しました。患者さんにとって最適な治療を選択、施行するために連携、協力して診療を行っております。

あらゆる側面において多角的に検討する

- 患者の選択
- 患者の治療
- 手術計画
- 手技後のケア



記者会見の様子

今回「TAVI」手術を受けられた方は、70歳代と90歳代の女性でした。高齢先進県である山陰地区では、TAVIによる大動脈弁狭窄症の治療を必要とする患者の数は増えていくと考えられます。

当院は、今後もひとりでも多くの患者さんに、心臓手術を諦めないで健やかな暮らしを送っていただけるよう、体への負担が少ない「TAVI」の普及に努めてまいります。

新科長紹介

7月1日 就任

人の繋がり・ネットワークを大切にしたい

第二内科診療科群 主任診療科長
磯本 一 教授

平成27年7月1日から第二内科診療科群 主任診療科長に就任いたしました。私は長崎大学第二内科で呼吸器、腎臓・循環器、そして地域の関連病院で一般内科を経験した後に、消化器内科の専門医（特に消化管領域）として診療に当たっています。また、同大学病院の内視鏡部門（光学医療診療部）の運営に携わりました。

このたび赴任いたしました鳥取大学機能病態内科学分野（第二内科）は開講から70年近くの歴史があり、県内を中心に山陰地方の内科診療を支える人材を多く輩出してきました。現在、当教室は第二内科診療科群として主に消化器疾患と腎臓疾患を担当しており、内科各領域・関連各科との連携のもと、教室員が一丸となり最後の砦として大学病院の専門診療を行っています。今後とも患者さんを全人的に診る内科医、総合力のある専門医を一人でも多く育成して地域医療に貢献したいと考えています。人の繋がり・ネットワークを大切にしてまとまりのある明るい「若者が集まる」教室を目指し、当該分野の特色ある先端医療、臨床研究を世界に向け発信していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域で全てを完結できる高いレベルの医療を目指す

頭頸部診療科群 主任診療科長
竹内 裕美 教授

平成27年7月1日から頭頸部診療群（耳鼻咽喉科、頭頸部外科）の主任診療科長となりました。耳鼻咽喉科頭頸部外科は、ヒトの五感の中の聴覚・味覚・嗅覚の障害、会話に必要な音声・構音の障害、生命の維持に不可欠な栄養摂取に影響する嚥下障害、睡眠時無呼吸症候群などの睡眠障害など、QOL（生活の質）に直接関係する領域を守備範囲としています。また、国民病の1つであるスギ花粉症の診療も私たちが中心となって行っています。

私たちは、それぞれの領域で専門外来を設け、全国的にみても高い水準の医療を提供しています。重粒子線治療など特殊な場合以外は、患者さんが東京や大阪に行かなくても、診断から治療まで全てをこの地域内で完結させることができる体制を整えており、今後もさらなるレベルアップに取り組みたいと思います。

聞いてみよう!手の届く最新医療

とりだい病院松江メディカルセミナー

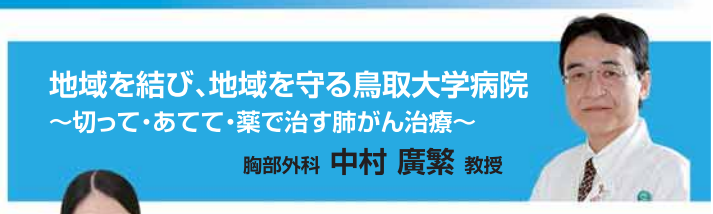
平成27年6月7日(日)島根県松江市の松江テルサにおいて、「とりだい病院松江メディカルセミナー」を開催しました。

「とりだい病院メディカルセミナー」は、当院の取り組みや診療内容を地域の皆様に直接お伝えする機会として、平成22年より米子市およびその周辺地域で毎年開催しています。地域の皆様の健康増進に役立ててもらうこと、当院への理解と、信頼関係を築くことを目的としています。

今回は「聞いてみよう!手の届く最新医療」をテーマとし、山陰で受けられる最先端医療や質の高い標準治療、身近な疾患の対処法について、各診療科の医師が講演を行いました。

松江市で開催するのは今回が初めてでしたが、250人の方に参加していただきました。参加者からは「理解しやすい話し方で、なるほどと思い、良い話が聞けた。」「気にしていたことがわかり、安心した。」といった感想が寄せられました。

山陰にもいい医療がある。住み慣れた地域で安心して医療を受けていただきたい。そのような当院の取り組みを、今後も地域の皆様に発信していきます。



地域を結び、地域を守る鳥取大学病院
～切って・あてて・薬で治す肺がん治療～
胸部外科 **中村 廣繁** 教授

女性のための腹腔鏡手術
～小さな傷で治せる婦人科疾患～
女性診療科 **出浦 伊万里** 助教

これだけは知っておきたい!
～腰痛の原因と上手な付き合い方～
整形外科 **永島 英樹** 教授

認知症疾患医療センター

認知症への理解を深めるために

高齢化の進展に伴い、今後10年のうちに700万人の人が認知症になると予想されています。認知症サミットが開催されるなど認知症対策は、社会全体で取り組まなければならない大きな課題です。認知症の方がその人らしく暮らせる、やさしい地域づくりに向けて、様々な施策が打ち出されています。医療に関することとしては、できるだけ早期に診断し、治療とケアに繋げていくために「認知症疾患医療センター」の体制強化が進められています。

鳥取県内には、これまで「地域型認知症疾患医療センター」が4施設。今年の3月には、県より指定を受け「基幹型認知症疾患医療センター」が鳥取大学医学部附属病院に設置されました。

基幹型認知症疾患医療センターでは、「地域型」が行っている業務に加え、「地域型」だけでは対応が困難な事例、例えば身体合併症を有する患者や、若年性認知症や、前頭側頭型認知症のように特殊な認知症に対応します。

そして、「地域型」との連携や、かかりつけ医、看護師、コメディカルを含む医療関係者が、さらに認知症の理解を深めるための事例検討会や研修会を開催します。地域住民に対しては、認知症に対する普及啓発活動や相談を行います。

もっと認知症をありふれた病気としてとらえ、みんなで支えていく…理解者を増やすための活動・支援により、認知症医療のさらなる充実を目指します。

認知症疾患 医療センター

基幹型	地域型	
地域型の機能に加えて、救急・急性期医療の提供（空床確保含む）	専門医療の提供	●鑑別診断 ●適切な治療方針の決定 ●周辺症状や身体合併症への対応
	地域の医療・福祉との連携	●医療連携協議会を開催 ●研修の実施 ●地域包括支援センターとの連携
	情報センター	●認知症に係る医療相談 ●情報発信

山陰地区で初

質の高い医療を支える技術

～「肝胆膵外科高度技能専門医」が誕生～

消化器外科 **坂本 照尚** 助教

肝胆膵とは肝臓、胆道、膵臓のことです。肝胆膵の手術は他の臓器と比べ合併症も多く、難しいといわれています。

平成27年4月、消化器外科 坂本照尚助教が山陰地区で初めて、「肝胆膵外科高度技能専門医」の認定を受けました。この資格は、難易度の高い肝胆膵の手術をより安全にかつ確実に行うことができる外科医を育成することを目的に、日本肝胆膵外科学会が平成20年に設置いたしました。

資格取得には、高難度手術を多数例施行している修練施設において経験を積み、指導医のもとで、定められた手術実績数を満たす必要があります。さらに他の専門医制度とは異なり、知識の有無だけでなく、ビデオ審査において技術も厳しく評価されます。今回すぐれた技術と専門性が認められたことで、患者さんの安心につながると考えております。

手術の様子

病気に負けない!!

「予防栄養」

病気を予防し、健康に毎日を送るためには
どのような食生活が良いでしょうか。
今回から、「予防栄養」をテーマに健康で過ごすための
食事について毎回テーマを決めてお話ししたいと思います。

第1回 噛むことでの予防栄養

よく噛んで食事をしていますか?「食事はゆっくりよく噛んで食べないと栄養にならないよ」と、子どもの頃母親に言われたという方も多いのではないでしょうか。では良く噛んで食べることのメリットとは何があるのでしょうか?

消化を助ける
よく噛んで、食物を細かくすれば消化がしやすくなります。また唾液もたくさんでて、胃での消化もスムーズになります。

効率よく吸収できる
きちんと消化されるため、その後に小腸での吸収もスムーズにできます。また、胃腸への負担が少なくなります。

食べ過ぎを防ぐ
満腹中枢を刺激し、満腹感をもたらせる効果があります。

歯に良い
顎が発達し、小児は歯並びに影響します。また、フェイスラインの引き締めにもつながります。

脳に良い
脳の血流量が増え、脳の発達、認知症の予防に繋がります。

血糖値の急上昇を防ぐ
ゆっくりと血糖値が上昇するため、膵臓に負担をかけにくく、糖尿病の予防になります。

新しい丼を開発!

～つくりたてのおいしさをそのままに～

栄養管理部では、つくりたての食感をそのまま提供できる新しい丼を開発いたしました。(特許申請中)

今までは料理の盛り付けから食べるまでに、メニューによっては食感が損なわれるものもありました。例えば丼メニューで蓋をした揚物は、時間が経つと一番の美味しさであるサクサク感が失われてしまいます。また、麺類などを伸びないように、汁と麺を別盛りで提供しようとすると、限られたトレーのスペースを多く使用するので、品数を減らさなければならなくなります。

これらの問題を解決するため、丼本体と上蓋の間に波状のスリットを設けた皿(中子)を挟み二層構造にいたしました。具とご飯、麺と汁を別盛りで提供ができるので、揚げ物のサクサク感を長く保ち、麺が伸びるのを防ぎます。今年度から病棟で利用を開始し、好評を得ています。